

令和元年十月二十四日（木）開催

古文書講座
「江戸時代の証文」



大阪府もずやん

大阪府公文書館 専門員 市原 佳代子

一・古文書の基本

1. 古文書とは？

- ① 古い文書、古くなって効力を失った証文。要件としては、本文・差出人・宛書人、年月日を具備すること、ただし、相手側や年月日は、時には省略されることもある。
- ② 一定の目的をもって、多人数を目標に編さん著述されたもの。
- ③ いろいろな事柄を覚えとして、後日に残す目的で記録したもの。
- ④ 特定の対象に意志を伝えるために作成された文献。差出人と受取人との授受の関係が前提になっている点で、主格の一方的な意志表示の産物である一般の著述、編纂物、備忘録、日記などと区別される。
- ⑤ 特に明治以前に作成された文書に限定する場合がある。

つまり・・・

ある人物 A が別のある人物 B に作成して渡した文書で効力を失ったもの、といえます。

※日記や帳簿は受取側がないため、厳密には「古記録」に分類されますが、一般的に「古文書」として扱われています。

古文書の性格によって呼び方が変わります。

公式様文書（くしきようもんじょ）・・・詔書、勅旨・勅書など

公家様文書（くげようもんじょ）・・・宣旨、繪旨など

武家様文書（ぶげようもんじょ）・・・下文、下知状、御教書、印判状など

社寺文書（しゃじもんじょ）

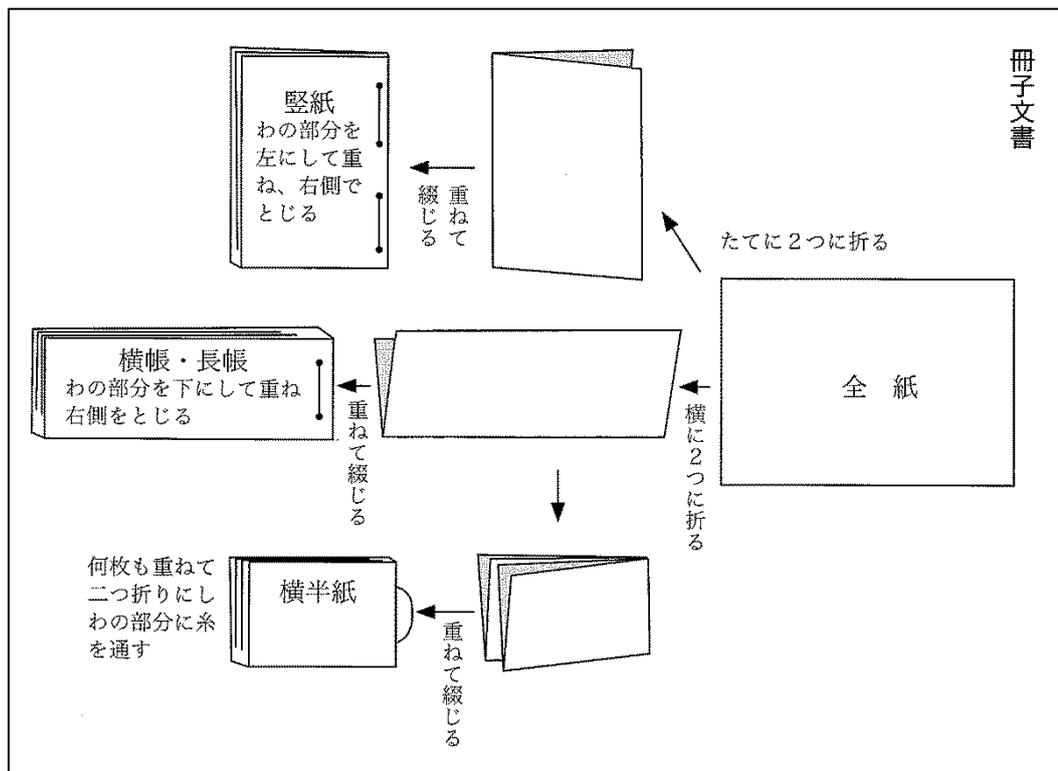
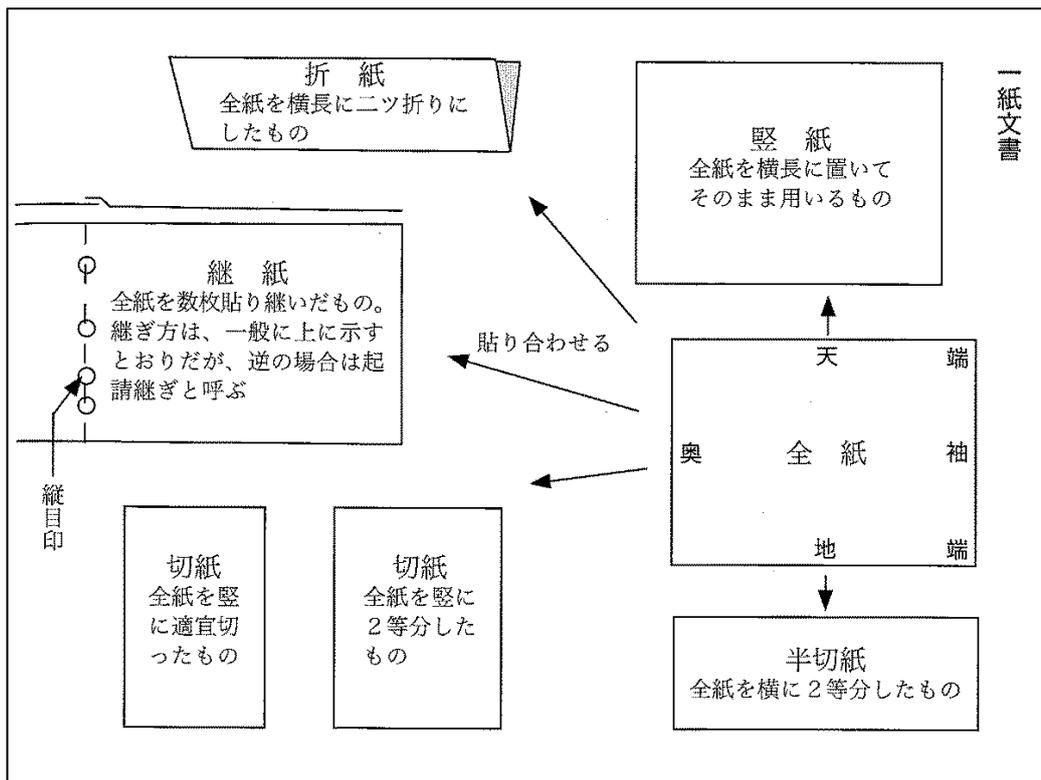
町方文書（まちかたもんじょ）

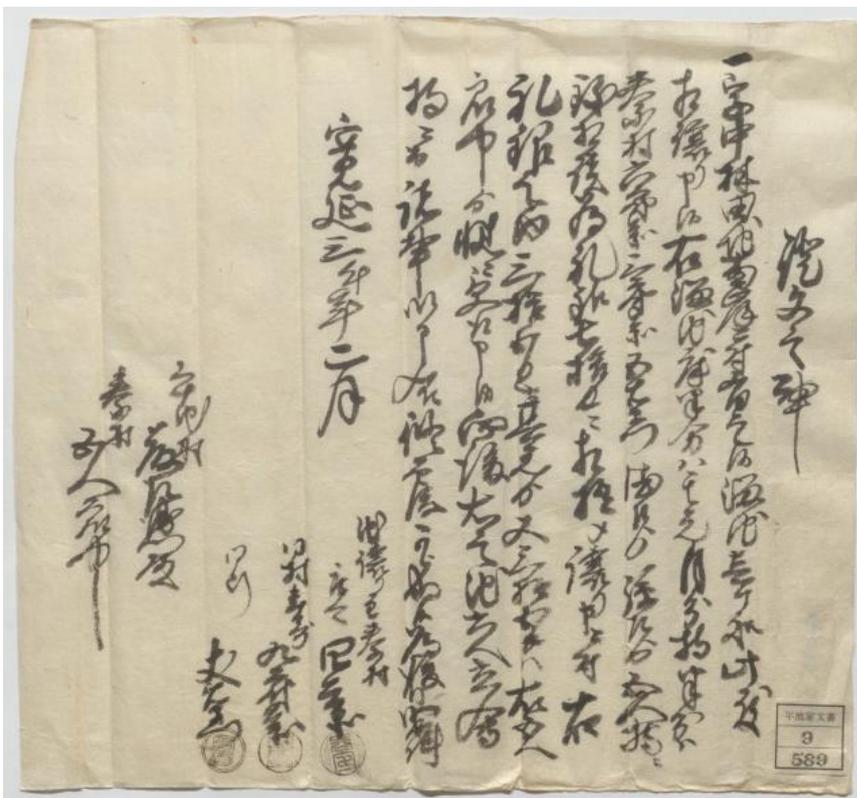
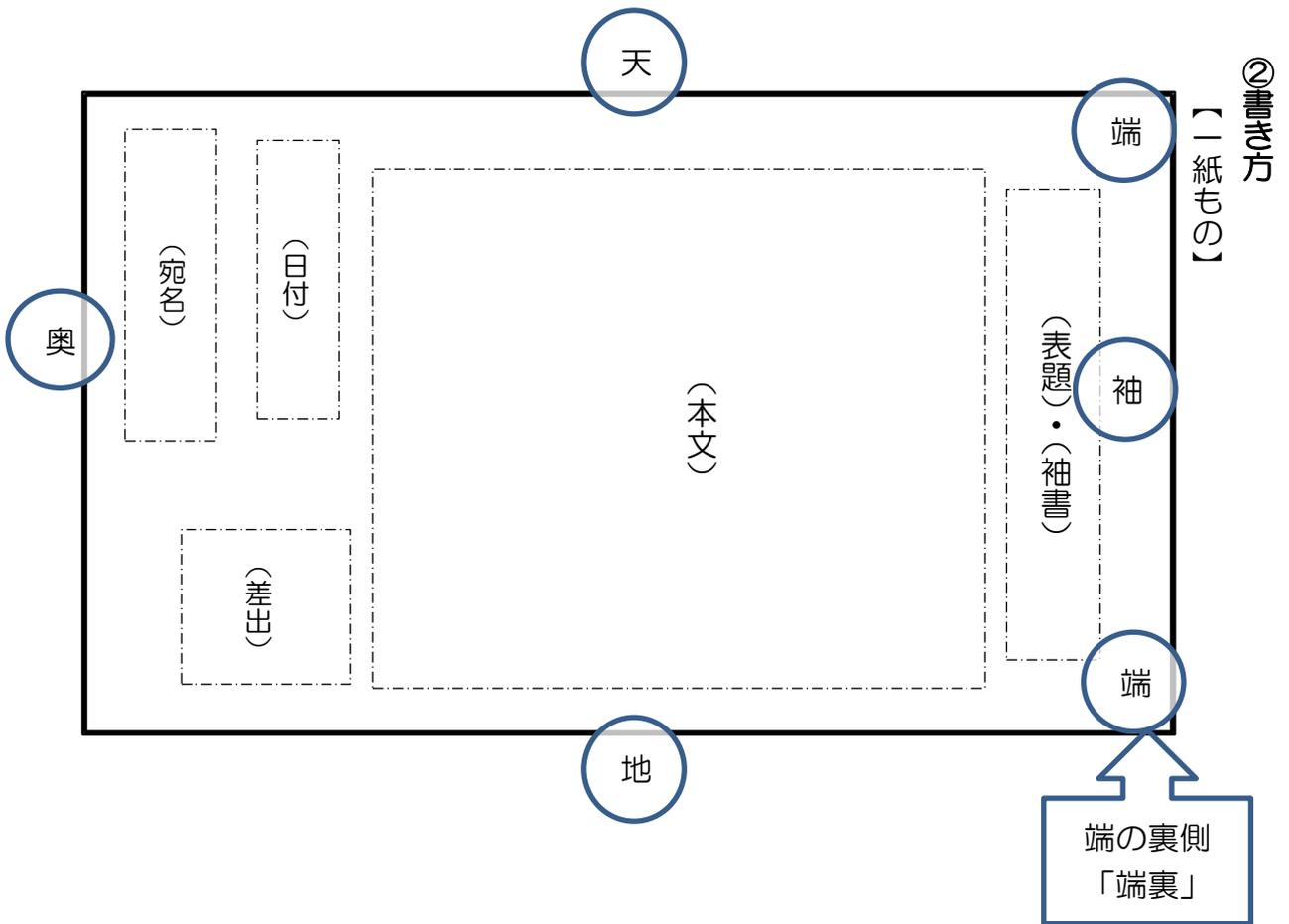
地方文書（じかたもんじょ）・・・江戸時代に村において作成された文書・記録類。村方文書とも

2. 古文書の様式

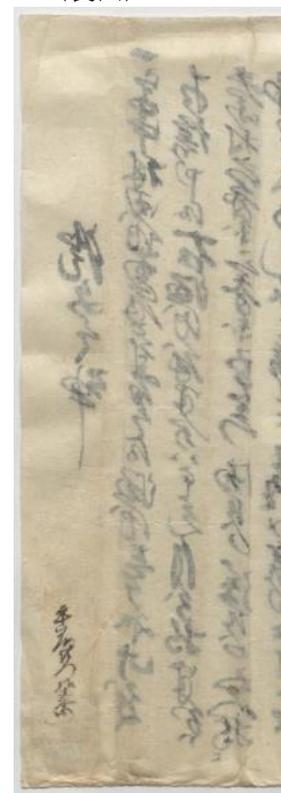
①かたち

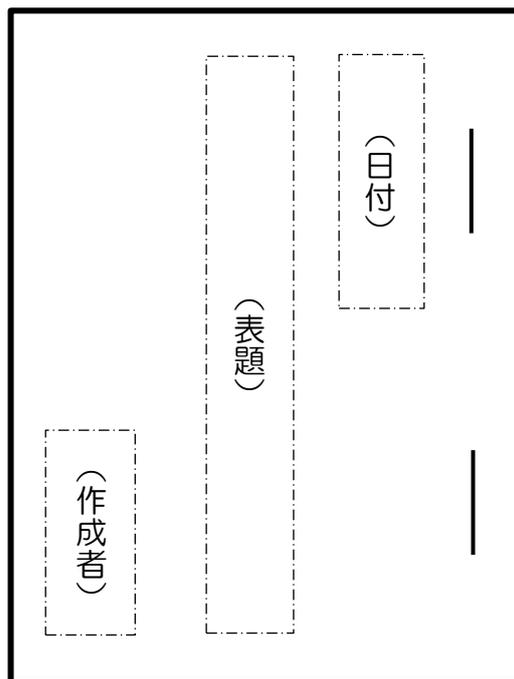
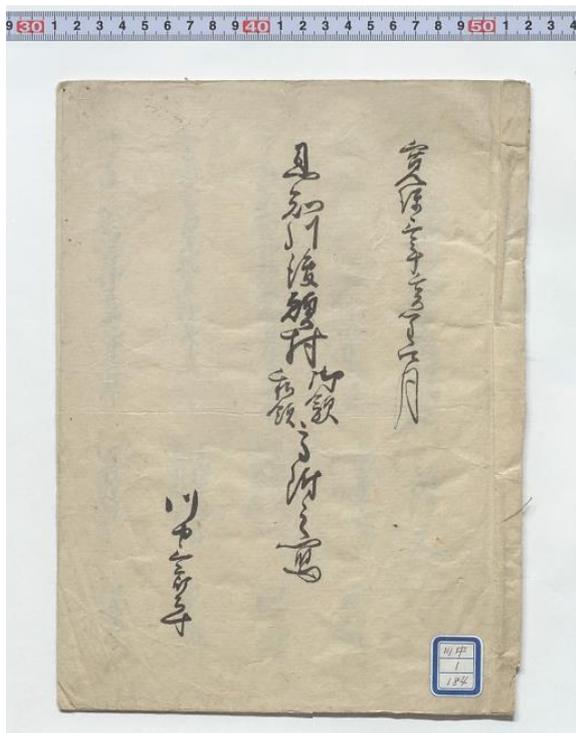
古文書には様々な形式があります。



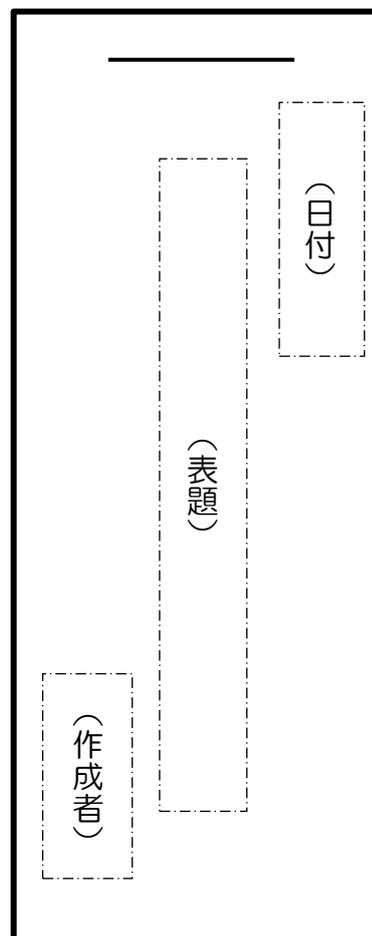
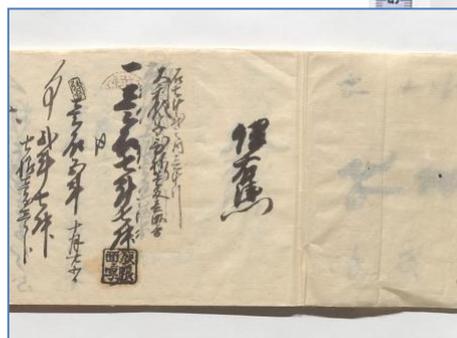
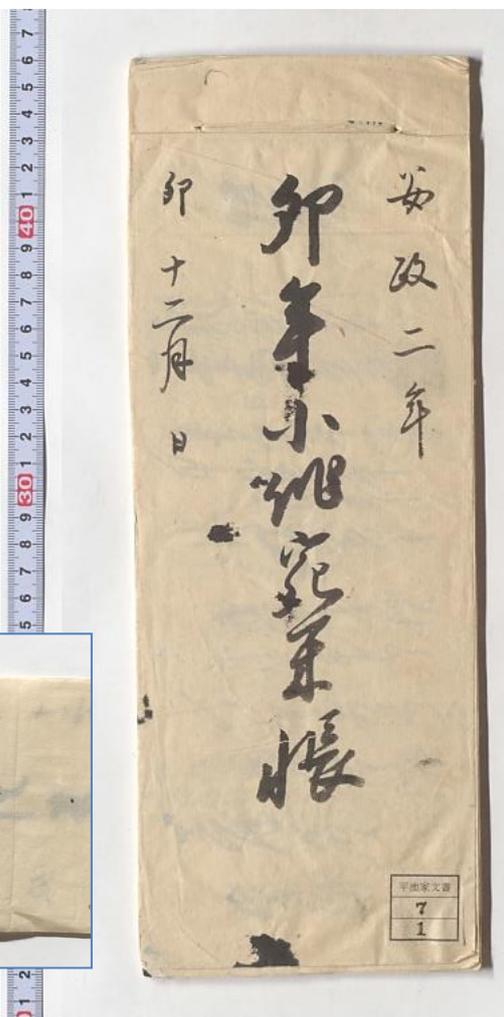


(裏面)





【縦帳】



【横帳】 ※中は横長にして書きますが、表紙は縦長にして書きます。

3. 文字の特徴

- ・ 古文書に書かれてある文字は、一般的に「へずし字」と呼ばれ、近世の古文書は、御家流（青蓮院流）と呼ばれる書体で書かれています。また、漢字は旧字体、ひらがなは変体仮名が使われことが多いです。
- ・ 漢字、ひらがな、カタカナの他に、合字やおどろり字も用いられます。

合字・・・二つ以上の文字を組み合わせた文字。



『へずし字用例辞典』

おぼひの字・・・へりかえし符号「ㇿ」「ㇾ」「ㇽ」「ㇼ」「ㇻ」「ㇺ」「ㇻ」「ㇼ」「ㇽ」「ㇾ」「ㇿ」など。重ね字や疊字とも。



『へずし字用例辞典』

- ・ 異体字（旧字、略字、俗字）で書かれる場合が多くあります。

『よへみる異体字』、『はじめの古文書講座』、『へずし字用例辞典』、『基礎 古文書のよみかた』



道の回りのくちず

・道標



右八	梅田 十そう
大仁 尼かさき	
左の	安治川 やぐら迄
	十七丁程



・割箸の箸袋



御手もこ

4. 文章の特徴

古文書は「候文」と呼ばれる漢文のような文体で書かれています。したがって、返り点が必要なものがあります。

①返読文字

不(ず・ざる) (可(べし) 被(る・らる) 為(す・さす・たる・ため・として) 令(しむ・せしむ) 無(なし)
 乍(ながら) (於(おいて) 難(がたし) 以(もって) 雖(いえども) 從(より) 致(いたす) 及(および)
 奉(たてまつる) (任(まかす)

②再読文字

漢文を読み下す際に用いる「再読文字(未・将・且・当・忝・宜・須・猶・由・盍)」は、基本的にありません。

③頻出の単語

よみがなを語群から選んでみましょう。

愈・愈々 () (態・態々) () (略) () (稍) () (能) () (嘸) () (忝) () (曩) ()
 爾来 () (一斗) () (鳥渡) () (兎角) () (屹度・急度) () (爰元・爰許) () (仮令・縦令) ()
 加之 () (陳者) () (宜敷) () (六ヶ敷) () (畢竟) ()

【語群】

- ① じつじつ
- ② ことごと
- ③ きつ
- ④ ちか
- ⑤ つか
- ⑥ や
- ⑦ しかのみならず
- ⑧ ち
- ⑨ ち
- ⑩ ち
- ⑪ ち
- ⑫ わ
- ⑬ かたじけない
- ⑭ たとい・たとえ
- ⑮ じ
- ⑯ ち
- ⑰ ち
- ⑱ ひ

④敬意を表す手法

敬語以外にも、身分が上の者に対して敬意を表す手法があります。

鬨字(けつじ)・・・一文字から数文字分あけます。

義二付

義二付

義二付

被し為二 仰付一

被し為二 成下一

從二江戸一被二 仰下一候二付

平出(へいしゅつ)・・・改行します。

御上様江奉恐入候義二付
是非共私江兼帯致具

義二付暫時も庄屋役
無し之候而者
御上様江奉恐入候義二付
是非共私江兼帯致具

擡頭・台頭(たいとう)・・・平出した上で、ほかの行よりの一文字から五文字高い位置から書きます。

一々彼々制度擬モント謀レルナリ所謂履霜堅冰至
深ク異日ヲ慮ラハ
帝位ハ徳ニ譲ルノ説ヲ主張セシメ計リカケシ其極遂ニ箕
帚ヲ執テ彼ニ臣妾タラシテ冀モ亦躡ニ宮ニ人心ヲ
動搖セシムル耳ナラス
神祖ノ國體ヲ壞乱ニ干載ノ
鴻業ヲ以テ虎狼豺麋ノ投テ食レシトス嗟乎木食其本ヲ
姑ニ暮吏共幕ヲ斃ヌ萬一
朝廷ニ在テ其轍ヲ踏ハ其罪誰ニ帰セヤ建武中興ノ
政一ニ其宜ヲ得ヤリシヨリ人心支離シ乱駘其間ノ衆シ

5. 基礎知識

干支

干支は、中国から伝わった十干と十二支の組み合わせで、年数や日数を表すために用いてきました。組み合わせが六十通りあるため「六十干支」、又は「十干十二支」といいます。十二支は、もともと中国で十二ヶ月の順番を示すただの符号だったものが、のちに動物と結びつけられ、現在の形になりました。

日本では、十干に、陰陽五行説の木・火・土・金・水と陰と陽を意味する「兄(え)」「弟(と)」をあてはめたものを使用しています。年月日以外にも、方角や時刻を表すためにも用いられました。

① 曆

干支が日本に伝わると、まず年を表すのに用いられ、ついで日を表すのに用いられました。元号ができ、年や日を序数で表すようになると、干支はつけたりつけなかったりされるようになりました。近世文書では、年号と干支、年号と十二支、干支もしくは十二支だけなど、多様な表記が見られます。

曆は、月の満ち欠けを基にして作られた太陰太陽曆を使用していました。太陰太陽曆は一年が約三五四日と、太陽曆の一年と比べて約十一日短いため、十九年に七回の頻度で「閏月」を足して十三ヶ月にすることによって、曆のずれを正す方法がはかられました。

この太陰太陽曆は明治五年十二月二日まで用いられましたが、翌三日を明治六年(一八七三)一月一日とすることで、太陽曆に移行しました。

十二支		
シ	子	ね
チュウ	丑	うし
イン	寅	とら
ボウ	卯	う
シン	辰	たつ
シ	巳	み
ゴ	午	うま
ビ	未	ひつじ
シン	申	さる
ユウ	酉	とり
ジュツ	戌	いぬ
ガイ	亥	い

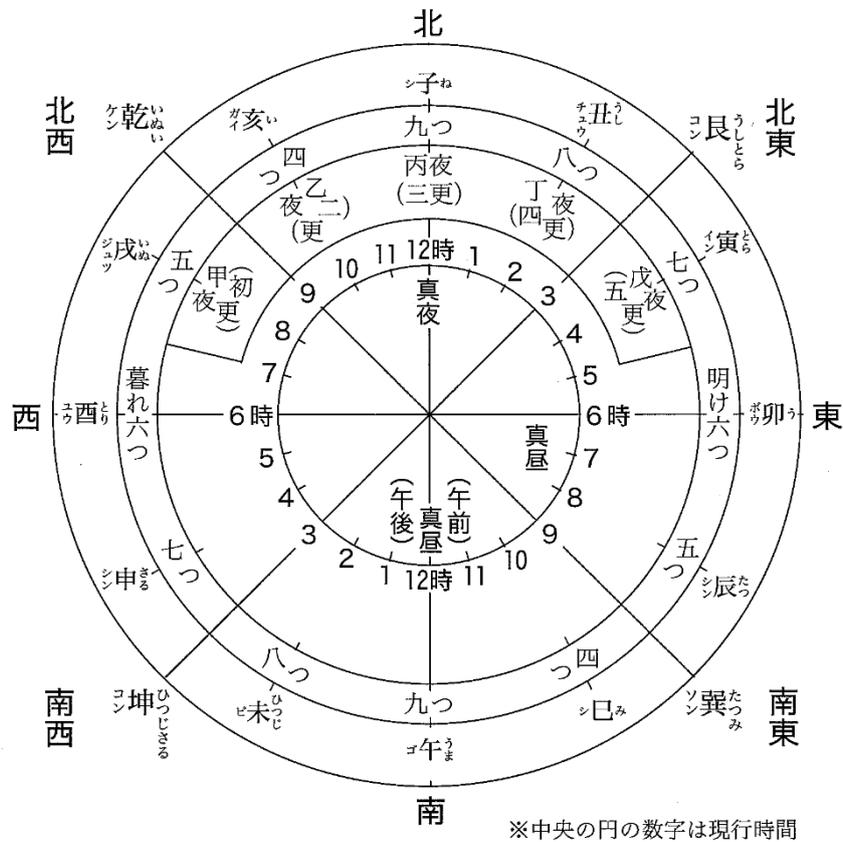
十干				五行
コウ	甲	きのえ	兄弟	木
オツ	乙	きのと	兄弟	
ヘイ	丙	ひのえ	兄弟	火
テイ	丁	ひのと	兄弟	
ボ	戊	つちのえ	兄弟	土
キ	己	つちのと	兄弟	
コウ	庚	かのえ	兄弟	金
シン	辛	かのと	兄弟	
ジ	壬	みずのえ	兄弟	水
キ	癸	みずのと	兄弟	

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
あ	甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥
い	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥
う	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥
え	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥
お	壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥

② 方角と時刻

十二支を用いて方角や時刻を表しました。

【方位表と定時法】



【不定時法】

刻	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子											
時	曉九ツ	曉八ツ	曉七ツ	明六ツ	朝五ツ	朝四ツ	昼九ツ	昼八ツ	昼七ツ	暮六ツ	夜五ツ	夜四ツ	曉九ツ											
夏至	[Shaded]												[Shaded]											
春分	[Shaded]												[Shaded]											
冬至	[Shaded]												[Shaded]											
12時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	午前						正午	午後																

●江戸時代の時刻の表し方には、定時法と不定時法がありました。民間ではおもに不定時法が用いられていましたが、これは、夜明けと日暮れを境に昼夜をそれぞれ六等分したもので、季節により時刻の長さに変動がありました。上に掲げました不定時法の表は、夏至、春分・秋分、冬至の時刻を示したものです。

【長さ①】

丈		尺		寸		分		厘	
1丈	=	10尺	=	100寸	=	1000分	=	10000厘	
		1尺	=	10寸	=	100分	=	1000厘	= 30.303cm
				1寸	=	10分	=	100厘	
						1分	=	10厘	

【長さ②】

里		町		間		尺		m
1里	=	36町	=	2160間	=	12960尺	=	3927.2688m
		1町	=	60間	=	360尺	=	109.0909m
				1間	=	6尺	=	1.818m
						1尺	=	0.303m

【容積】

石		斗		升		合		勺	
1石	=	10斗	=	100升	=	1000合	=	10000勺	
		1斗	=	10升	=	100合	=	1000勺	
				1升	=	10合	=	100勺	= 1.80391ℓ
						1合	=	10勺	
								1勺	= 10才

【重さ】

貫		斤		匁		分		
1貫	=	6.25斤	=	1000匁	=	10000分	=	3.75kg
		1斤	=	160匁	=	1600分	=	0.6kg
				1匁	=	10分	=	0.000375kg
								3.75g

【面積】

町		反(段)		畝		歩(=坪)	
1町	=	10反	=	100畝	=	3000歩	= 9917.36m ²
		1反	=	10畝	=	300歩	= 991.736m ²
				1畝	=	30歩	= 99.1736m ²
						1歩	= 3.30579m ²

【金貨】

1両	=	4分			=	永樂通宝1貫文
		1分	=	4朱	=	永樂通宝 250 文
				1朱	=	永樂通宝 62 文5分

【銀貨】

1貫目	=	1000 匁					
		1匁	=	10 分			
				1分	=	10 厘	=
						1 厘	10 毛

【錢貨】

1貫文	=	1000 文		
		10 文	=	1 疋

【三貨換算率（公定）】

	金		銀		錢
慶長9年(1604)	1両	=	約 43 匁	=	永樂通宝 1000 文
元禄 13 年(1700)	1両	=	50 匁	=	4000 文
天保 13 年(1842)	1両	=	60 匁	=	6500 文
明治2年(1869)	1両			=	10000 文

永樂通宝1文=その他の錢4文

6. 古文書を解読する手順

① 翻刻する。(くずし字を楷書にする。)

※原稿用紙のようなマス目がある紙に行うと、見直す時に便利です。

② 読点や返り点を付けて、読み下し・書き下しをする。

③ 現代語訳しながら内容を読み取る。

④ 辞書や自治体史等で、書かれている内容について調べる。

☆古文書に触る際の注意点

- ・手を洗い、装飾品(腕時計、ネックレス、指輪など)を外しましょう。
- ・メモや調書を取る際は鉛筆を使用し、鉛筆の芯や消しゴムのかすを史料に挟み込まないように注意しましょう。
- ・飲食や喫煙をしながら触ることは厳禁です。

7. くずし字解読ツール

① 字典(紙媒体)

・児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)

漢字辞典のように引くタイプ。かな編が充実している。

・児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)

筆順から引くタイプ。慣れるまでに時間がかかる。

※机上版・普及版の二種類があります。

・岩尾俊平・服部大超編『くずし解読字典』(柏書房)

部首、筆順の両方から検索できる。用例の掲載はない。

・林英夫編『増訂 近世古文書解読字典』(柏書房)

頁数が少なめ。用例編や参考資料編は初心者勉強に役立つ。



・林英夫監修『基礎 古文書のよみかた』（柏書房）

初心者向け。入門書と用語辞典と字典がセットになっている。

・『新編古文書解読字典』（柏書房）

前記のものより頁数が多い。部首と筆順のそれぞれから引くことができ。用語が掲載されていない。

・大石学監修／太田尚宏、中村大介、保垣孝幸編著

『古文書解読事典―文書館へ行こうくずし字の特徴とくずし字の事例で検索』（東京堂出版）

くずし字を引くだけでなく、古文書の基礎がわかるやさしい古文書事典。

・林英夫『音訓引き古文書字典』（柏書房）

古文書初心者向け。江戸時代の用語の意味がわからない時に引く字典。

②字典（紙媒体以外）

・「CD-ROM版くずし字解読用例辞典」（東京堂出版）

・東京大学史料編纂所 電子くずし字字典データベース (<http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>)

・東京大学史料編纂所／奈良文化財研究所「木簡・くずし字解読システムMOJIZO」(<http://mojizo.nabunken.go.jp/>)

くずし字の画像を一文字ずつ入力すると、東京大学史料編纂所のくずし字データベースと奈良文化財研究所の木簡データベースの計六千字約三万点のデータから、類似する文字画像十六点が表示される。

※「MOJIZOKin」(iOS版)。「木簡・くずし字解読システムMOJIZO」用の画像処理アプリが登場。

一. 古文書を読む

1. 史料（古文書）の紹介

今回取り上げる古文書は、「平池家文書」の中から、「売渡申一札之事（建家・納屋）」（キョー9ー623）です。

これは売渡状・売渡証文と呼ばれる史料で、江戸時代、土地などを売ったときにその証拠として飼い主に出す書状です。売主だけが署名する証文が多いが、物件によっては町村役人や証人がこれに連署します。

2. 「平池家文書」について

平池家は、河内国茨田郡平池村（現在の寝屋川市平池周辺）で代々庄屋をつとめた家です。

大阪府公文書館開館当時に、六〇〇〇あまりの古文書を寄贈・寄託されました河内国河内郡今米村（現在の東大阪市今米）の川中家と遠戚であるという縁から、平成二十四年に、明治期のものも含めた七五〇〇あまりの古文書が大阪府へ寄贈されました。それらを「平池家文書」として、当館で所蔵しております。





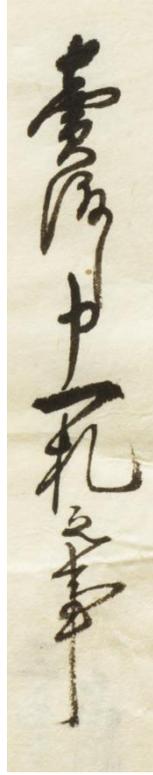
Handwritten text in Chinese characters, organized into several sections. The text is written in a cursive style and includes several circular stamps or seals. The sections are roughly as follows:

- Top Section:** A large character '知' (Zhi) followed by smaller characters and a circular seal.
- Middle-Left Section:** A vertical list of characters, possibly names or titles, with a circular seal.
- Middle-Right Section:** A vertical list of characters, possibly names or titles, with a circular seal.
- Central Section:** A larger block of text, possibly a letter or a short story, with several circular seals.
- Bottom-Left Section:** A vertical list of characters, possibly names or titles, with a circular seal.
- Bottom-Right Section:** A vertical list of characters, possibly names or titles, with a circular seal.
- Bottom Section:** A final line of text, possibly a signature or a date, with a circular seal.

3. 古文書の解読

① 標題

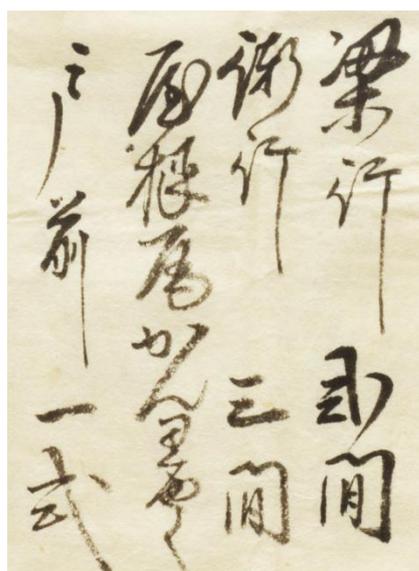
--	--	--	--	--	--	--	--



④ 二二目的売却物としての価値は？



⑤ ④の詳細は？



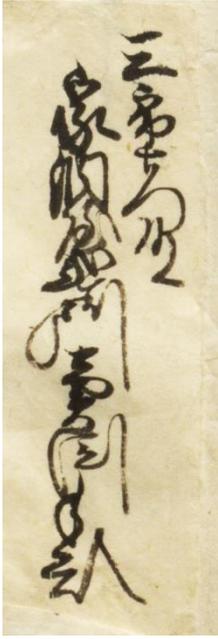
⑦ 作成年月日

文化六年 巳
胃

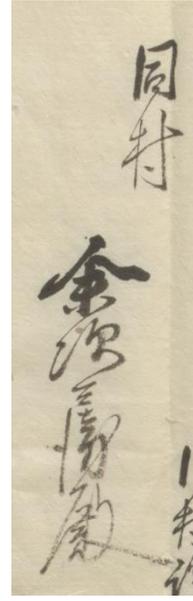
⑧ 差出人

秀村家紙也書
 日村日
 日村日
 小書
 源書
 恒書





⑩ 端裏書



◎宛名(受取人)

古文書解読のポイント

- ①文字と文字の境目を見極める！
 - ②運筆を追う！
 - ③部首や特徴のある部分を見極める！
- どのように筆が流れているかを追うこと、くずし字の形に慣れることができます。筆の強弱にも注目しましょう。

☆古文書独特の文体に慣れること！

用語や文体に慣れると、文章の流れから文字を予測することができ、『くずし字辞典』等で調べやすくなります。そのためには、翻刻されているもの（各市町村史の史料編など）を読むことをおすすめします。

ただし、固有名詞はたくさん読んで文字に慣れる必要があります。

大阪府公文書館では、今回テキストに使用した「平池家文書」の他に、河内国河内郡今米村（現在の東大阪市）で庄屋をつとめた川中家の「川中家文書」なども所蔵しています。紙焼きしたものを閲覧・複写（※複写は有料です）できます。

【参考文献】

- ・大友一雄監修 『文化財探訪クラブ⑪ 古文書に親しむ』、山川出版社、二〇〇二年。
- ・笹目蔵之助 『古文書解読入門』、新人物往来社、一九八二年。
- ・林英夫監修 『はじめての古文書教室』、天野出版工房（発行）、吉川弘文館（発売）、二〇一三年。
- ・林英夫監修 『基礎 古文書のよみかた【シリーズ 日本人の手習い】』、柏書房、二〇一四年。
- ・児玉幸多編 『くずし字用例辞典 普及版』、東京堂出版、二〇〇二年。
- ・『日本国語大辞典（縮刷版）』第二巻、小学館、一九九五年。
- ・同右、第四巻、小学館、一九九四年。
- ・『国史大辞典』第六巻、吉川弘文館一九八五年。



